



## 企業人として特に心がけていること

AGC 旭硝子の伊勢村次秀様からバトンを引き継ぎました花王株式会社解析科学研究所の小池 亮と申します。伊勢村さんとは京都大学大学院大塚研究室の社会人博士課程の同期で、修了後も産業界関連の活動などでたびたびご一緒しています。今回、せっかく企業人でバトンがつながりましたので、企業の分析部門に所属する者として特に大切だと考えている「人とのつながり」について書きたいと思います。

みなさん（特に学生や若手研究者の方）は、企業の分析部門に何かイメージをお持ちでしょうか？ ご存知のとおり、開発した素材や製品の評価には「分析」が欠かせません。つまり、分析できなければいくら優れたモノでも世に出せませんし、より良いモノの開発もできません。したがって「分析のレベル」が「会社の技術レベル」を決めるといっても過言ではありません。また、私の会社では商品開発も基盤研究もすべて本質の理解に基づいて進めていく方針を取っており、R&D 活動における分析部門は非常に重要な位置づけにあると言えます。では、「何もしなくても仕事が舞い込み、この先も順風満帆か？」という決してそんなことはありません。というのも、商品開発にかけられる期間は限られているので、「こんな分析技術が欲しい」と相談を受けてから動き始めたのではとても間に合いません。当然、このようなことが続くと他部署から全く頼りにされなくなるので、近い将来必要になると予測される分析技術を先回りして開発することが何よりも重要です。そのためには、会社や R&D の方針はもちろん、どの部署でどんな研究をやっているか、始めようとしているかをきちんと把握しておく必要がありますし、ある目的で開発した技術を社内全体で有効に活用するためにもネットワークの構築は不可欠です。また、分析部門に限らず、企業ではどんなに優れた研究者でも一人で仕事を完遂できることは少なく、多くの場合は関連する部署との協働が必要で、大きな成果は人とのつながりがあって初めて出せるものだと考えています。近年多様化したコミュニケーションの手段にはそれぞれに一長一短がありどれが最適とは言い切れませんが、お互いの理解を深め信頼関係を構築できるという点から、他部署・他事業所のメンバーともできる限り「Face to Face」のコミュニケーションを心掛けてきました。

もちろん、それでも全ての要望に完璧に<sup>な</sup>応えられる訳ではありません。ただ、要望されたことが自分達ではできなくても、せめて社外で実現可能なアイデアを語れないと、その件に関しては分析部門の存在価値が完全にな

くなってしまいますので、社外の方とのつながりも同じく大切にしています。このため、社外の方からいただいたお誘いやご依頼は、よほどのことがない限りお引き受けするよう心がけていますし、今まで築き上げてきたつながりがこれまでに何度となく業務でも役に立ってきました。

話は飛躍しますが、この心がけの最たるものとして、とある少年野球チームの指導者を引き受けたこともあります。野球が大好きなことに加え、他チームの指導者とも交流の機会を持てるので、「人脈形成にもなるかな」と考えてのことでしたが、年齢や職業を問わず多様な人が集まる場では、ひとつの物事に対しても様々な見方や考え方、対応の仕方があるものだと感心させられることが数多くありました。

さらに、この経験を通じて全く予期しなかったことも学びました。少年野球では、野球に対する想いや始めたきっかけ、経験年数、適性、性格、期待される役割など、何もかもが違う子供たちに合わせて、指導方法を変えながら技術や個性を伸ばし、さらに一つのチームとしてまとめつつ勝利を目指すのですが、これって何かに似ていませんか？ そう！ 少し言葉を置き換えると、企業での人材育成や組織運営そのものなんです。転勤するまでのわずか4年間でしたが、つながりを大切にしていたおかげで、またとない経験や学習の機会を得ることができました。なお、今さらながら、私が社会人博士課程に挑戦する貴重な機会を得たのも、ある学会のイベントで大塚先生に再会したことがきっかけの一つでした。この原稿を書きながらやはり色々な意味、いろいろな場所で「つながり」は大切にすべきだと再認識しています。

本エッセイでは一つの側面だけを書きましたが、分析部門の活動は非常に多岐にわたりますし、その内容は企業によっても様々です。分析化学会の年会や討論会で開催している「産業界シンポジウム」主催のセッションでは、各企業における分析部門の具体的な活動内容を紹介していますので、興味のある方はぜひお越しください。

さて次回のエッセイは、その「産業界シンポジウム」の運営委員会などでご一緒している帝人株式会社構造解析センターの菅沼こと様にお願ひしました。菅沼さんと一緒に活動されている方は多いと思いますが、聡明で自らの役割を的確に果たしつつ、メンバーを引っ張ってもくれる非常に頼もしい方です。菅沼さん、ご多忙にもかかわらず急な依頼をご快諾くださり本当にありがとうございます。来月のエッセイを心待ちにしています！！

〔花王解析科学研究所 小池 亮〕